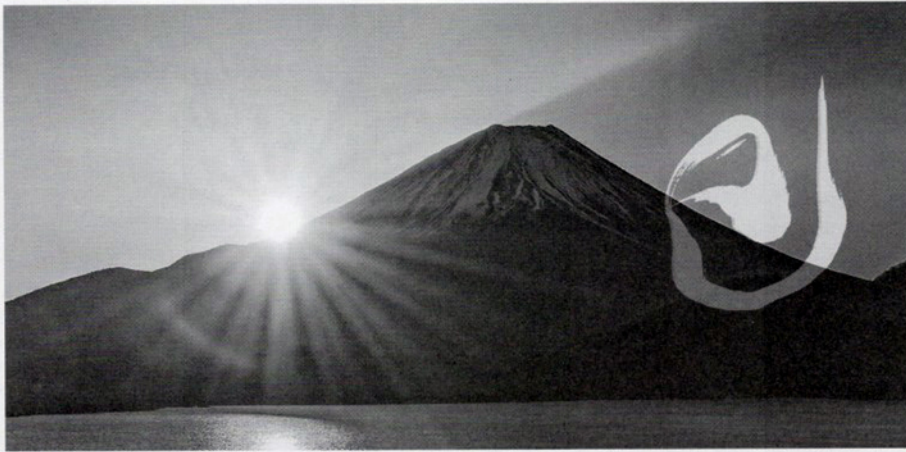


(1)



雲晴

新年号

「雲晴」第五十三号

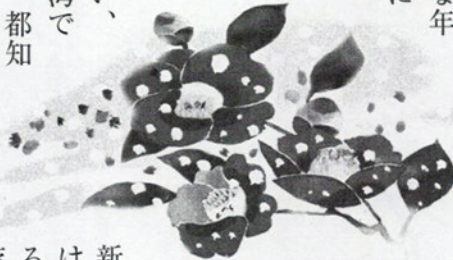
令和七年一月一日発行

貞林院 瑞正寺

〒125 東京都葛飾区東金町五丁目四六―五
電話(〇三三) 三六二七―三四一五
FAX(〇三三) 五六九九―五九一五

ついでに
新年のお慶びを
申しあげます

昨年は皆さんにとてどのような年でありましたでしょうか。社会に目を向けると色々なことがありました。一月一日に能登半島地震が発生、八月の南海トラフ巨大地震注意報でわが身に起こるかもしれないという天災に恐怖を覚えました。九月にも能登半島を記録的な大雨が襲い、総統選を終えたばかりの隣国台湾でもM七・二の地震が起きました。都知事選、自民党総裁選、衆議院選挙があり、海外では米大統領選。討論会中のトランプ氏が銃撃された事件もありました。一方、パリ五輪では、日本勢海外最多金の活躍に、コロナ禍で無観客で開催された東京五輪以上に日本中が盛り上がりました。大谷選手の驚異的な活躍に沸いたMLB。新紙幣も発行されました。



さて新たな一年が始まります。令和七年の干支は「乙巳」蛇年です。

「乙」は困難があっても紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表し、「巳」は脱皮し強く成長することから「実」にかけて「実を結ぶ」とも表されます。組み合わせると「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ縁起の良い年とされます。

「日に新たに、日々に新たなり」

(中国古代の湯王の言葉)

「人と比較をして劣っているといても、決して恥ずることではない。」

(松下幸之助氏の言葉)

「明日がすばらしい日だといけないから、たくさん休息するのさ。」

(スヌーピーの言葉)

今日は昨日より新しく、明日は今日よりまた新しい。少しずつでも自分のペースで進んでいければ、きっと今よりずっと前に進むことができます。疲れたらちよっと休めばよい。念仏も同じ。行きたく先は、大切な先立たれた方が待つ素敵な世界。迷いながらも念仏を忘れずに毎日毎日大事に過ごしていければ、いつかは楽しさだけの幸せだらけの極楽浄土に往生できます。

本年も多くの出来事があることでしょう。明日こそ「明るい日」と信じてすべての人にとつて万人和楽の一年となることを祈念しています。

唱歌のふるさと 童謡のくに ②

著：佐山哲郎



わが心の愛唱歌

女子学生に袴。海老茶式

部という言葉を知っている読

者は何人いるだろうか、海老

茶色の袴に靴を履いた女学生。

髪は庇髪に結った。

明治の中ごろ、華族女学校

の校長下田歌子が「まち」の

ない、いわゆる「あんどん袴」

を創案し、生徒に穿かせたの

がその始まりであるという。

せっせっせ

青山土手から

白い蝶々が三つ三つ

その後、ハイカラさんが

袴穿いて靴履いて

おっぽこぼんのぼん

歌に合わせて両手を代わる
代わる合わせて遊ぶ。

いま「伊藤家の食卓」とい

った番組では、いろいろな歌

詞に合わせてタレントがやっ

ている。

もともと女の子の遊びでる。

「夏も近づく八十八夜」で

やる「せっせっせ」は有名で

ある。

華

花ひらひて
實をむすぶ

好胤



⑨「去年言つた」

高田都耶子

母は東京生まれの東京育ち。実家が事
業をしていたので連日祖父を訪ねる来客
で賑わい、時には母の部屋まで待合室に
なる有様でした。母は静かに暮らせる結
婚がしたいと思い、修学旅行で訪れたあ
の古い鄙びたお寺ならきつと願いが果た
せると速き奈良に嫁いだのでした。

と呼ばれていた隣りの古びた建物でした。
創建が奈良時代の寺ですから、大正時代
の建物なら「新館」と言つことです。先
ず土埃だらけの「新館」部屋を掃除から
始まったそうで、東京から一緒に行った
姉やが「お嬢様がなんでこんなことしな
いといけないのでしょうか」と涙ぐんだ
とか。それを母は「文句言つても仕様
がないじゃないの。掃除するしかないで
しょ」と元氣付けたのですから、都会育
ちながらも田舎暮らしにも前向きに明る

く取り組んでいたようです。
父の師匠は橋本凝削というお方。唯識
という難しい学問を納められた学僧でし
た。父にとつては敵しい師匠であり、小
学校五年生にお弟子になつてから、「そ
れはもう鬼より怖いお人だった」のです。
その敵しい師匠は母のことは大層可愛が
つてくれました。

薬師寺では毎年旧暦二月に「修二会」と
いう行法が執り行われます。その頃は三
月末から一週間、練行衆と呼ばれる十人
の歯でいらしたとのこと。虫歯もな
く、日々の三度の食事を常とし、間
食を全くせず、食事が済めばきつち
りと歯を磨く。それを生涯しつかり
と続けていました、それからお念仏。
枕経の席での家族のお話では、お仏

一口法話

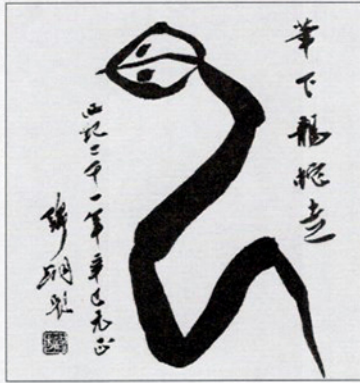


「蠟燭の灯」

やさしい光で周りを照らす蠟燭の
灯を見ているとホッとする方も多
いのではないのでしょうか？蠟燭は自
分の身を削りながら、周りを明るく照
らしています。

昨年百三歳で大往生したお婆さん。
足腰が弱くなつてからもお寺が近く
ということもあり山門までよくリハ
ビリを兼ねてゆつくりと散歩されて
いました。山門まで来ると本堂に向
かつて頭を下げて帰って行かれる。
会うといつもニコニコと私にも笑顔
を分けて下さる。日頃からお婆さん
からお徳を頂いていました。そんな
お婆さん、亡くなるまで見事に自分
の歯でいらしたとのこと。虫歯もな
く、日々の三度の食事を常とし、間
食を全くせず、食事が済めばきつち
りと歯を磨く。それを生涯しつかり
と続けていました、それからお念仏。
枕経の席での家族のお話では、お仏

書への誘い



貞林院瑞正寺 住職 林 清方

故林 錦洞書

の僧侶が一日六回の法要を営みます。和紙で作られた造花で堂内を荘厳(飾る)するので薬師寺の修二会は「花会式」という名で親しまれてきました。練行衆が大変なのは勿論ながら、それを支える裏方も大変でした。参拝者への食事作りと振るまいの為、近所の農家の奥さんや手伝いの人が来てくれて、私の住まいは朝から晩まで大勢の人でごった返していました。ご飯は竈で炊かれ、煮物は火鍋で煮られて、赤膚焼の炮烙(ほうらく)に盛られ湯気とともに運ばれていました。

さて、母は奈良に嫁いで初めての「花会式」を迎えるに至り、(橋本凝胤)管長さんから事細かく準備、期間中の裏方での仕事などを教えられました。初めての年は必死に取組み、無事に終えることができました。そして翌年もまた花会式の季

去年言った



節が巡ってきました。母は諸事万端を整えるべく管長さんを本坊に訪ねました。「あれは・・・、これは・・・、どうしたら良いのでしたでしょうか」と尋ねた母に対して、管長の返事は一言でした。「去年言った」と。威厳と風格が衣を纏っているような管長さんに、それ以上聞くことができるわけもなく、若き母はノートと鉛筆を携えて、大勢の人立ちに「あれはどうするのですか」「教えてください」と頭を下げて聞き回ったそうです。

「一度聞いたことは二度聞いてはいけない」その時に肝に銘じたと母から何度か聞いた話です。

◆ところで前回書いたピアノの件ですが、若い音楽の先生が是非とのごことで我が母校に嫁入りすることになりました。

壇の前はもちろん、生活の中でもお念仏を良く唱えていたと教えて下さいました。お別れは悲しいけれど「お婆さん有難う」と気持ちを含めてお送りしました。いつも笑顔でいらっしやるけれど、きちんと芯を通す。正に蠟燭のようなお人でした。お婆さんが亡くなった後も、その家の前を通ると以前と変わらず木魚の弾む音が響いています。残されたご家族のどなたかが念仏を唱えて下さっているのでしょうか。お念仏の習慣は、先人への想いと共に受け継がれます。温かい思い出は、心の芯を光で照らし支えていくのでしょうか。

(絵本山知恩院布教師会ホームページより)

今年巳年です。蛇はその姿から気味が悪いとか怖いと思われがちですが、昔から神様の使いとして大切にされてきた歴史もあり、また脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルとされたりもしています。そのため巳年は再生や変化を繰り返しながら成長発展を遂げる年とも言われ、色々な意味で期待もされる。さて法然上人と蛇にまつわる話としては「法然上人蛇身石」の年のようなです。

今年巳年です。蛇はその姿の言い伝えがあります。建永二年、法然上人が七十五歳、建永の法難により讃岐国に流罪された時のことでした。ある程度の自由もあつたので讃岐各地を弟子の浄賀と一緒に歩いてみると、現在の香川県内にあつた四国の札所、弥谷寺と曼荼羅寺付近を通りかかりました。その時に法然上人は「浄賀よ、あなたの父親は蛇となつてこの岩の中で苦しんでいるが、その泣き声があなたには聞こえないのか」と尋ねられました。何も聞かれない浄賀は目の前のを割ってみると、一匹の小さな蛇が出てきたそうです。浄賀の父親は生前にこの地の寺の土地を騙し取った罪で蛇となり、岩に閉じ込められていた訳です。この石は蛇岩と呼ばれ、まるで蛇が大きな口を開けているかのような形で現在も残っております。

本年もお念仏により一年が明るく正しく過ごせますことを念じております。



謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。
 今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。
 巳年の守り本尊は、昨年と同じく普賢菩薩です。文殊菩薩と共に釈迦如来の脇侍として隣におられます。普賢菩薩のご利益としては、心の安定とともに智慧の菩薩であることから正しい判断と深い理解をもたらしてくれます。混迷する現代社会では多くのストレスと不安が付きまといますが、心の安らぎと物事を見極める目が必要です。
 普賢菩薩さまのご加護により、今年一年皆さまがその功德により平穩無事に過ごされることを心より祈念申し上げます。

令和七年乙巳 元旦

貞林院瑞正寺

住職 林 清方
 副住職 林 良政
 法類総代 林 英道
 同寺総代世話人一同

婆をご希望の方は電話・ファックス、メール等によりお申し込みください。

令和七年 年中行事のお知らせ

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましたらあらためてご案内いたしますので、お誘い合わせの上ご参詣ください。

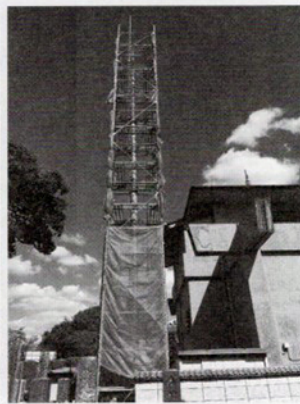
*春・秋彼岸会法要につきましては、寺報にてご案内しております。お中日に塔婆回向をしておりますので、塔

- *春彼岸会法要 三月 二十日(木)
- 施餓鬼会法要 五月 十四日(水)
- 七月お盆法要 七月 十三日(日)
- 八月お盆法要 八月 十三日(水)
- *秋彼岸会法要 九月二十三日(火)

避雷針用鉄塔の修繕を実施

本堂の裏にありますが、祭日等の記念日には国旗の掲揚にも使用しています。昭和五十五年に建立された本堂は二階の屋根部分が銅板のため、落雷避けのために先代が設置したものです。約四十五年の年月が経ち錆なども目立つため、再塗装とまた安全性の強化を図るためにも基礎部分の点検も行いました。

修繕費につきましては毎年納めて頂いております護持会費より支出させていただきます。これからも安心してお参りできるよう配慮していきたいと思っております。



「足場を組んでの工事」



「基礎部分も強化しました」

本堂裏手の通路を補修

本堂裏手、水屋から裏門に通じる通路のアスファルトによる補修工事を行いました。これまでの通路は簡易舗装であったため表面の劣化が激しく、剥がれて石が飛び散るなど大変歩きにくい状態となっております。昨年十月に避雷針用鉄塔の修繕に併せて補修工事も行いましたので、どうぞ安心してお墓にお参りください。

(貞林院瑞正寺)



「綺麗に舗装され歩きやすくなりました」